

DHP10 Ca 拮抗剤による薬物性歯肉増殖を伴う慢性歯 周炎の一症例

A case report of Charonic Periodontitis with Gingival Overgrowth Induced by calcium-channel blocker (aniodipine besylate).



keywords:高血圧、菌物性菌肉增殖症、慢生菌周炎、SPT

1. はじめに

高血圧患者は、日常診療でよく遭遇する循環器疾患である。人口の高利 化とともに、今後さらに高血圧有病患者は増加することが予測される。 高血圧患者に処方される高血圧治療薬は歯肉増殖症を繋起する事が報告 されており、歯科衛生士としてこの核な患者をケアすることは重要な貢 務であると考える。カルシウム拮抗剤を服用し、歯肉増殖症を発症した 機性職間崇働者に対して 情間的療を行い、良好か結則が得られた症災

11. 症例の概要

膜病器:数年前から何度か腫れ他院で治療はしていたが、なかなか治療 しないため娘の勧めで当院来院、

全身既往歴:高血圧、高脂血症、アレルギー性鼻炎、高筋膜性腫瘍症 2005年まり高金圧度によりカルンウム品机商(ノルバスタ)を1日1 超级用, 非类维者,

學物性偏肉問題症を伴う広汎型重度性性歯切炎

①謝瑪基本治療(口腔清掃指導、スケーリング、ルートプレーニング、

指徵,咬合调整)/②再評值/③询用外科的泰/④再評值/②捕捉治療

V. 治療経過

2014年6月 福岡基本治療開始、2014年8月 馬評価 18・48 保存不 可にて救衛、う無治療及び補間治療、2015年6月衛同増殖が残存した

31・32 はレーザーにて実内整形。2015 年 6 月 SPT へ移行。2015 年

(月業財変更により現在は ARB(アハブロ酸 100mg) 雇用中、月に1度

の SPT を継続中(現在メインテナンス移行後3年経過)

W. 考察わよびまとめ

業物性強肉増殖症にカルシウム拮抗薬の薬程作用のみで発症するのでは なく、 歯固病細菌が関連することが示唆された、 薬療変更が全身疾患 のリスケを高めると判断される場合、セルフケアの徹底と衝現基本治療

をできるだけ正確に丁寧に行うことが必要であると考えられる 今回の

ケースでは、ブラークコントロールを徹底し良好な結果が得られ、この

成功体験が設定の重読の動機づけになったと考えられる。

2012年 おおたずにタネタフェック教務 (株内学)

当院所属の 認定歯科衛生士による ポスター発表予定